



YMCA KOBE

Y M C A NEWS



神戸青年

No.610

2011.7・8

JUL・AUG

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7 THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/松森 正樹 神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15 TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479 URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA 年間聖句

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、 たゆまず祈りなさい。(ローマの信徒への手紙12章12節)

神戸YMCA創立125周年記念式典 挙行

定期総会開催

神戸キリスト教青年会の定期総会が5月31日(火)午後6時30分から開催されました。

塚本潤一牧師の「かなしいことがあっても」というテーマによる奨励は、まさに今の日本のおかれている状況をあらわす唆に富むお話でした。礼拝の後、武田寿子会長が議長を務め、新総会構成員紹介の後、逝去された方々を偲んで黙祷を捧げました。引き続き、議事では会則改定が協議され、決議されました。各委員会の報告、クラブ幹事会の報告もおこなわれ、それぞれの日々の活動が紹介されました。



チャペルからロビーへ移動しての第2部では、和やかな雰囲気の中で懇談があり、ボランティア奨励賞が授与されました。

(受賞者の詳細は4面)

2011年5月8日(日)午後2時、モレ弦楽四重奏団による、バッハ作曲カンタータ第一番より「かがやける明星の美しさよ」が厳かに奏でられ記念礼拝が始まりました。新約聖書コリントの信徒への手紙1、9章19節、23節に導かれ、川上盾牧師(日本基督教団東神戸教会)より「共に福音にあずかるため」と題した次のような力強いメッセージをいただきました。(要旨)「YMCAで過ごすのは楽しいぞ! そこにいる連中は若者を楽しませる全てを備えている! そこにいる全ての若者達と仲間になるがいい!」は1978年にアメリカでリリースされ全世界でヒットした、そう「YMCA」の一節です。日本のキリスト教諸団体で、これほど民衆からその名称を連呼された組織はなかったでしょう。ところが、一般の人々にとってYMCAは実はあまり知られていませんでした。私自身も当時は上手く説明できませんでした。今なら「教会とは違う形で、人々にキリスト教を伝える事業体。教会がイエス・キリストによって語られた福音を分かちあう場であるのに対して、YMCAは様々な働きを通してキリスト教のエッセンスを社会に伝える役割を担っている所」と答えるでしょう。キャンプソングの合間に歌う賛美歌、食前の祈り、そしてキャンプファイヤーの最後にリーダーが語ってくれるメッセージ、このような教会とは違う形、道のりで福音を伝える働きこそ、神様がYMCAに託された使命なのです。教会とは同じことをしなくてもよい、言い換えれば「何でもあり!」の精神なのですが、手段や方法においてのことであって、目的は教会と歩む姿は違っても「共に福音にあずかる」ことなのです。歌「YMCA」の中にこんな言葉があります。「若者よ、倒れ込んだ大地から這い上がれ、君はもう新しい街にいる。不幸な思いをすする必要など、ここには存在しないのだ。若者よ! 君を迎えてくれる場所がある! たとえ金が足りなくても、その場所は君を追い出したりはしない。そして私は確信する。君が数え切れぬほどの人生の喜びをそこで知ることよ!」これからの社会を担う若者たちにとって、YMCAがこの歌詞のような場となり、出会いを提供し続け、共に福音を分かち合う交わりを生み出し続けよう祈ります。

記念式典はハンドベルの透き通る音色に誘われて幕をあげ、来賓を代表して、井戸敏三兵庫県知事、矢田立郎神戸市長から、YMCAへの励ましと期待に満ちた祝辞が述べられました。遠く海外のYMCAから臨席された19名のゲストの紹介が続きました。兵庫県、神戸市、西宮市、三田市をはじめとして、永年にわたり神戸YMCAの発展に尽力いただいた団体・個人の方々への感謝楯の贈呈が行われました。



音楽に溢れた式典の最後は、神戸マスコワイアとYMCAボランティアーリーダーの共演となりました。会場も一体となって歌われた曲は「We shall overcome」。手と手をつなぎ、平和な世界の実現のために、YMCAの未来のために心をこめて歌い上げました。

閉会にあたり、「YMCAの素晴らしさは、子どもやリーダーの成長の喜びを共にできること、これからも繋がっていききたい。」と長井慎吾実行委員長の挨拶がありました。「何でもあり!」のYMCAの真髄はここにあるでしょう。570名を越える多くの方々がこの喜びを共にしてくださいましたことに心よりお礼申し上げます。

マイエポックスストーリー ④

大森 真 紀 (神戸YMCA元職員)

私が神戸YMCAと出会ったのは、アクティビックのクラスです。毎週月曜日のみの参加でしたが、その日がとても楽しみでした。プールで泳ぐことももちろんですが、優しいリーダーとおしゃべりすることを楽しみにしており、クラスの前後は必ずリーダーとお話をしていました。忙しい中でも私の相手をしてくれたリーダーの方に感謝の気持ちでいっぱいでした。どんなときもひとりひとりのメンバーを大切に。そのような気遣いこそ、神戸YMCAならではのことで私は強く感じます。

私が小学2年生のときの阪神淡路大震災を機にアクティビックのクラスへは通わなくなりましたが、その後、近所のお友だちに誘われて余島キャンプに参加しました。初めての余島キャンプは、私にとって大きな刺激となりました。たくさんのリーダーと出会いました。大自然の中で目一杯、遊んでくれるリーダーたちが大好きでした。小さい私にとってリーダーの姿は憧れの存在となり、「キャンプのリーダーになりたい!」と、小さいながらも強く感じました。楽しいキャンプは私にとって年に1度のイベントとなり、小学6年生まで毎年参加しました。余島キャンプをきっかけに、野外活動に大変興味を持った私は、大学で迷わず野外活動を専攻しました。大学でも野外活動に関するたくさんの方々の経験を通して、大きく成長できたと思います。余島キャンプでの体験は、私の進路に大きな影響を与えてくれました。そして、大学卒業後の進路先を検討する時期となり、私にとって神戸YMCAは数ある団体のなかでも、昔と変わらず温かい印象を受けました。選考などの連絡をとる度、「元気な感じがしますか?」「体調管理には気をつけてね。」という私を気遣う言葉を毎回掛けて下さいました。小さいころの印象と変わらず今も誰もが誰に対しても温かい心を忘れずに存在しているということ。私も、温かい心を持つことを忘れずたくさんの方々と接していきたいと感じています。

「神戸YMCA」125周年記念コンサート

会館の歴史から見る神戸YMCAの125年

森 紘一

(常議員・神戸学園都市ワイズメンズクラブ)

常に若者の居場所であるYMCAを、その象徴の1つである会館という側面から歴史を振り返ってみたい。

1886年(明治19年)に神戸基督教徒青年会として発足した当初は各地の教会の建物を集会所として活動していたが、神戸YMCAの育ての親と言ふべき村松吉太郎が21歳の若さで渡米してYMCA運動に感銘を与えられて1899(明治32)年に帰国後、組織整備に大いに働いた。1904(明治37)年に会館建設計画を立て、建築資金募集運動を展開して1913(大正2)年に落成式をした。第1期下山手会館(下山手通6丁目)である。当時の貨幣で総費用12万円を要したが、その内の9万円は米国富豪ウツドワード氏からの寄付であった。この大講堂でバスケットボールが初めて日本に紹介された。この第1期会館は市電山手線開通という神戸市の都市計画のために僅か8年で取り壊され約100m東方に第2期会館が新築された(1922(大正11)年)。この年に村松理事長(初代)は辞任した。この会館は地下1階に体育館を有し、地上4階のうち2階には1,300人を収容できる大講堂があつて、他に適当な会場を持たない神戸市にとって大切な公共機関となった。しかし総費用24万円のうち7万円の資金が不足し、世界不況の時期とも重なって関係者は募金活動等にたいへん苦労した。借金の完済はなんと昭和20年4月であった。そして1945(昭和20)年6月5日の神戸大空襲で、20数年の永きにわたつて市民に親しまれてきた「下山手の青年会館」はその外壁を僅かに残すだけで全壊してしまつた。しかしその4ヶ月後の10月には、神戸教会の厚意によりその地下室を借用して本城総主事(第4代)ほか2人がYMCA事業再開準備に立ち上がった。この仮会館時代は4年ほど続くが、1947(昭和22)年には会館復興計画が作成され、中山手2丁目に土地を購入して、1949(昭和24)年に少年会館、1953(昭和28)年に体育館・本館の開館となる。第3期中山手会館である。1957(昭和32)年に本城総主事は定年退職し奈良常五郎(第5代)総主事となる。この会館建設においても多くの募金活動が展開されている。また事業としては1950(昭和25)年に余島キャンプ場が開設されキャンプ事業が盛んとなった。そして1965(昭和40)年には西神戸青少年センター(長田会館)が建設されたが、阪神淡路大震災で被災し1997(平成9)年に閉館された。

現在の第4期加納町会館は1972(昭和47)年に竣工しているが、中山手から移ってきたのはコミュニティのニーズの変化に対応し、フィットネスという新しい健康理念に対応する機能を充実させるためであった。この会館も既に40歳を迎えようとしており、更に新しい時代のニーズに対応したりリニューアルを計画しなければならぬ時期に来ている。しかし、常に変わらないのは、YMCA会館とは地域に対するYMCAの窓口であり、地域の青少年の居場所であるということであり、われわれ会員が精神的にも物質的にも大切に支えていかなければならないものであるということであろう。

125周年記念ハンドベルコンサート

去る5月14日に創立125周年を記念した特別イベントとしてハンドベルコンサートが神戸栄光教会で開催されました。神戸YMCAには神戸YMCAベルクワイアー、ディンドンリンガーズ、リングング・エンジェルズと3つのグループがそれぞれ精力的に活動していますが、今回は創立120周年記念コンサート以来の合同演奏会となりました。3つのグループはいずれも創立時から阿部望先生の熱心なご指導のもと、練習を重ねながら今や関西を、日本をリードするグループと成熟しています。リングング・エンジェルズは今年初のリサイタルを計画されており、ディンドンリンガーズも今年3回目の台湾演奏旅行が予定されています。神戸YMCAベルクワイアーは昨年に創立30周年を迎えると共に、第14回ハンドベル世界大会でも開会式の特別演奏の荣誉を与えられるなど、国内外を問わず、聴く人々の心に響く演奏を重ねてこられています。このように神戸YMCAから生まれた3つのグループそれぞれが充実した時期を迎えている時に、創立125周年記念コンサートを合同開催できたことは神様の大きな導きでもあります。今回のコンサートも、グループごとの様々な技法を用いた演奏はもちろんのこと、3つのグループが合同で奏でるマスリングングは、圧巻の一言でした。決して一人では奏でることが出来ないハンドベルですが、リンガーズの皆さんと阿部先生が心一つにし、祈りを込めた演奏は、本当に心にしみる、深みのある音色になって聴衆を魅了していきました。その澄んだ音色に耳を傾けつつ、神戸YMCA125年の歩みも多くの方々の祈りと行動によって支えられてきたこと、またそのひとつひとつの場面が神様の大きな祝福の中で歩みを続けていくことができたことに感謝しつつ、これからも地域の中で全てのいのちが光り輝くよう神様の御旨に沿った活動が出来るよう祈らずにはおられません。阿部先生は『ベルは自然からのもので作られた楽器で神様が音楽を奏するために作られた楽器です』とお話されましたが、その音色はまさしく神様から与えられた癒しの音色です。3月の東日本大震災に見舞われ、いまなお大勢の方が苦しみの中にありますが、これからもこのハンドベルの音色が人知を超えた癒しの音色となって、一人一人の心に届くよう利用されることを願っています。栄光教会の皆様をはじめ多くの方のお支えでコンサートが開催できたこと、また終演後の震災支援基金にも多くのご支援をいただいたことを併せて報告とさせていただきます。



125周年行事 今後の予定

今後の125周年記念行事ですが、9月には記念講演会とシンポジウム、そして1月には125周年の締めくくりとして音楽と祈りを通じたイベントを予定しています。

記念講演会・シンポジウムは「真の国際人とは～いま、私たちに求められていること～」と題し、社会教育の第一人者で前東京女子大学学長、ワールドビジョン国際理事の湊晶子氏より「私を生きる、共に生きる」をテーマに、日本の社会運動、キリスト教的人間観に大きな影響を与えた賀川豊彦や新渡戸稲造の生き方に触れつつ、明治初期という大きな変革期にどのような働きが必要であったか、国際・平和というYMCAの願いとも共通する生き様をどのように生きたのかを語っていただきます。その後のシンポジウムでは、講演者に加え広島女学院大学学長の長尾ひろみ氏と日本キリスト教海外医療協力会総主事の大江浩氏にも登壇していただき、現代社会の課題と個々人の生き方に提言をいただくよう企画しています。様々な社会の問題に向かっていく125周年以降のYMCAの歩みに大きなヒントを貰えるように願っています。9月10日(土)場所は神戸YMCAの創設ゆかりの神戸教会で行います。また1月には、神戸YMCAのつながりある方々からの音楽とメッセージ・祈りで綴る時間をもとうと企画しています。

どちらのイベントも、神戸YMCAのこれからの歩みを勇気づけてくれる機会となるように、多くの方々のご支援の中で準備を進めています。ぜひ、どちらの行事も多くの参加者の方をお待ちしています。

詳細については、ホームページでもご紹介をしています。ぜひ御覧ください。

神戸YMCA125周年記念講演会

「真の国際人とは」～いま、私たちに求められていること～

日時：2011年9月10日(土) 13:30～17:00(開場13:00より)

会場：日本基督教団 神戸教会(神戸市中央区花隈町9-16)

講演者：湊 晶子氏(前東京女子大学学長、ワールドビジョン国際理事)

シンポジスト：湊 晶子氏・長尾ひろみ氏(広島女学院大学学長)・大江 浩氏(日本キリスト教海外医療協力会総主事)

定員：250名(申し込み先着順)

参加費：無料

申し込み方法：E-mailに、「氏名」「所属(関係)」「連絡先」を記入の上、125event@kobeymca.orgへ

このおまつりの益金は、東日本大震災の支援と介助犬運動、里親運動の支援に献げさせていただきます。

神戸YMCA保育園「ワイワイまつり」ですが、今年は東日本大震災への支援を少しでも早く出来ればという思いもあり、時期を少し早めて5月28日(土)に実施させていただきます。当日はまだ5月なのにせつやかな台風の影響もあり、あいにくの雨。それでも在園児や卒園児の家族を中心に地域の老若男女が訪れ、園舎は大賑わい。保護者の方々の協力もいただき、食べもの屋さんやゲーム屋さん、お楽しみ劇場などで盛り上がり、3時間足らずの時間でしたが、懐かしい顔、おいしい顔、うれしい顔、いろんな表情がみられたおまつりでした。

このおまつりの益金は、東日本大震災の支援と介助犬運動、里親運動の支援に献げさせていただきます。



保育園

例年恒例となつているYMCA保育園・西

幼稚園 ~HAPPY TIME~

西神戸YMCA幼稚園の13:00~13:30は『HAPPY TIME』です。
 一番大きな学年になって張り切っている年長組が、幼稚園のみんなが『HAPPY』になるように過ごそうと決めた“幸せな時間帯”です。そもそも幼稚園では、「体操服」で元気いっぱい遊んで、帰る時には「制服」に着替えて帰るのですが、年少組は「着替え」が大変！ そこでお兄さん、お姉さんの有志が「お着替えのお助けマン」として活躍してくれていました。しかし、「お助けマン」は、年長組にとって大いなる喜びで、張り切る姿があるのですが、年長組になったからといって急に何もかもがうまくできる訳ではないのが現実です。喜び勇んで「お助けマン」として出向いたものの、どう関わったらいいのか…？ 体操服を脱がしてあげようと体操服を引っ張って、小さいお友だちが泣いてしまったり、着替えさせてあげようと思って近づいたら逃げられたり、また、せっかく出向いたのに年長組さんが照れたり、ふざけたりしてうまく小さいお友だちに関われず空回りする姿もありました。

そしてある日、「僕たちにももっと、何かできそう！」「こんなことも出来るかも？」と、着替えの手伝いだけでなく“今、できること”を考えました。そして、①着替えの手伝い ②机拭き ③床拭き ④遊んであげる。絵本を読んであげる。⑤ショコラ(うさぎ)のお世話…の5つとその他にも“皆がHAPPYになれることを考えて動く時間帯=HAPPY TIME”と決めました。

次の日から、せっせと床を拭く姿や、ほうきで掃く姿。鉛筆を削る姿。小さいお友だちに絵本を読んでくれる姿が見られています。「HAPPY TIME始まるから、早く片付けなさい！」という声も聞かれるようになりました。年長組さんの働きへの小さいクラスからの「ありがとう」は、ちょっぴりがんばりすぎている？(かも知れない)年長組さんには嬉しい励みとなっているようです。そして、「僕がするわ!」の声や「ありがとう」の声は、幼稚園を、私達をHAPPYにしてくれています。話し合いの時、ノリノリの年長組さんが言いました。「先生、この“HAPPY”は、世界に繋がるなあ！」小さな小さなHAPPYが隣にいる人をHAPPYにし、そのまた隣にいる人をHAPPYにし…と繋がれば、本当に今、困難な中、苦しみの中にいる人をHAPPYにすることができるかも知れない、と感じさせられました。子どもたちの「今、出来ること」は、とっても大きくて素晴らしいなあ!と思います。

●2010年度YMCA国際協力募金へのご協力ありがとうございました

【収入】 (単位:円)	
一般募金	3,010,082
指定募金	1,322,033
合計	4,332,115

【支出】 (単位:円)	
日本YMCA同盟拠出金	350,000
タイワークキャンプ及びボランティア・チェンマイ派遣	1,320,000
定住外国人子ども奨学金	180,000
神戸YMCA日本語学校就学生奨学金	240,000
国際活動リーダーシップ養成	642,738
エイズ孤児支援・エイズ教育支援	115,600
オリープの木・パレスチナ孤児支援	175,000
東日本被災地支援	215,581
ハイチ災害支援	256,772
チリ災害支援	191,800
スリランカ水害支援	50,000
CODE支援	100,000
開発・国際理解教育	94,624
事務局経費	400,000
合計	4,332,115

ソナタ 奏鳴曲 No.48



総主事 水野雄二

「冬景色」を楽しみたい

夏の「神戸青年」に「冬景色」とは、ただ涼を求めたわけではありません。私はなぜか昔から、人生を0歳から20年刻みで「春・夏・秋・冬」になぞらえて、なんとか冬が終わる80歳までは生きたいと考えておりました。今はさしずめ晩秋の日々を過ごしていることになりましたが、実りの「秋」であるのかどうか、神のみぞ知る有様です。私がまもなく迎える「冬」の時代に冬景色を楽しむ生き生きとした生き方をしたいものだと思っています。

「冬の時代」というと寒々しく寂しく厳しいことの例えですが、今の時代はYMCAでもAOA(アクティブ・オールダー・アダルト)と称して、活動的なシニアの方々とウエルネスセンターは賑わっています。楽しく身体を動かし、明るく仲間と語り、時には若いメンバーを指導するという多くの会員の姿を見ることができます。少子高齢の時代にあって、福祉施設の拡充も大切ですが、元気なシニアが活動できる場も求められています。

東日本大震災で多くの方々が被災され、あらためて当たり前のように普通に暮らすことの幸せを感じ、「今」を生きていることの恵みを教えられました。そのような時、高齢になって入退院を繰り返しているある人が、「こうしている『今』は神からの贈り物ですから、英語では『今』と『贈り物』を同じ言葉の『プレゼント(present)』というのだそうです。今というこの時間だけが私が本当に持っている時間だと思って、精一杯明るく、そして周囲の人たちに感謝して生きることにしています。」と言っています。

高齢の日々を生きるには多くの苦しみが伴うかもしれませんが、今あることの幸せを感じながら、私も遠からず来る「冬」の時代を感謝して過ごしたいと思います。どんな「冬景色」が見られるのでしょうか？ 楽しみます。

シリーズ 125周年のまじり

125周年記念 「パートナーYMCAの集い・レセプション」

森 恭子

(常議員・神戸ポートワイズメンズクラブ)



YMCAの集い

振り返って、当日参加にも関わらず積極的にリードしていったリーダーの対応力の高さ、通訳の介助など、随所でユースが活躍していました。同時に、この日までの準備は、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部の方々と交えて進めました。神戸YMCAにおいてユースの活躍は、決してユースのみではない、諸先輩・ワイズメンズクラブの皆様とともにあることを意味します。集まった会場の人々、会場の雰囲気、そのすべてが、まさにYMCAであり、まさに神戸YMCAを感じるものでした。

打ち解けた後のレセプションは、琴とフルートの演奏に始まり、会場は一気に祝いの空気に包まれました。歴史を共にしたパートナーYMCAの方々との久々の時間を、それぞれが懐かしさとともに楽しんでいました。

5月7日三宮会館チャペルには、「パートナーYMCAの集い」に90名近い方々が集ってました。いつものチャペルとは、テールとイスの配置を変えてのお出迎えです。開催準備には、国際委員会の下でタスクチームが設置されました。それぞれの思いと関わりを持つ人々が集う中、充実した時間とするには何をすればよいか。協議の末、世界YMCAの中でも重要課題となっている「ユースへの取り組み」を各YMCAから報告してもらい、共有することに決めました。こと「ユース」に関して、先駆的な取り組みをしている神戸YMCAに、3月11日の東日本大震災以降の混乱が続く状況にも関わらず、(※)4カ国5YMCAから、私たち神戸YMCAのパートナーが駆けつけてくださいました。また、125年の歴史の一部であり、支え続けていた各レイパーソン・ワイズメンズクラブ国際協会の皆様。さらにそのパートを引き継いだユースリーダーの姿。チャペル中央にテーブルを設け、周りをギャラリが囲むように工夫した配置は、年齢層を超えたフラットな場を意識したものでした。グループセッションは、和やかな雰囲気のもと、活発な意見交換がなされました。



レセプション

(※)神戸YMCA海外パートナーYMCA:米国、シアトル、タイ、チェンマイ、台湾、高雄、韓国、大田、水原

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204



ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401
西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705

ボランティア奨励賞

新山久司さん (ウエルネスセンター学園都市)

ウエルネスセンター学園都市の会員の新山さんは、毎週火曜日の11時～12時、ラケットボールプログラムの「プレーパートナー」を2010年からボランティアとして1年間担当してくださいました。メンバーと一緒にプレーするプレーパートナーとして、初心者から上級者まで幅広い層に丁寧に指導して頂き、午前中のラケットボールが大変盛り上がっています。

2011年度も同じ時間帯で担当してくださいます。

西神美賀多台教会 教会員の皆さん (YMCA保育園)

学園都市の保育園で、子ども達が生活する環境づくりのために「手づくり」のタペストリーの作成の他、月に1度のペースで、子どもの環境づくりの手芸を担っていただいています。到

底職員だけではできない、子どもの環境づくりのお手伝いをいただいていること、また未来を担う子どものためにという「暖かな思い」に対して感謝いたします。これからも、各YMCAの保育園においても、近隣の教会や、地域の方々に関わっていただく機会を広げていきたいと思えます。

船井聖子さん (ホームヘルパーの事務所)

神戸YMCAホームヘルパーの事務所の「生きがいデイサービス」で、ご本人の賜物である音楽を通して、利用者の方の心を豊かにするプログラム提供を担ってくださっています。またバザー・午餐会でも受付ボランティアや、封入作業など見える部分、見えない部分でYMCAをお支えいただいています。



2011年度 ボランティアリーダー委嘱式

5月22日(日)にボランティアリーダー委嘱式が行われました。基調講演では今井鎮雄氏(神戸YMCA顧問)からお話をいただき、これからの時代に私たちが求められていることをしっかり考えることができた1日となりました。

Photo Topics



日本語教師養成講座生と 日本語学科留学生との交流会



ちとせ幼稚園バザー



高等学院修学旅行

感謝

【第24回神戸YMCAチャリティーゴルフ大会】

参加者

65名

収益金

326,649円 (今回の収益金は東日本大震災の復興支援として捧げさせていただきます。)

子ども奨学金

34,913円

協力者氏名

- 飯田義雄、猪飼惇二、市原法雄、植田淳子、上野恭男、大崎正博、小笠原美根、奥山泰仁、尾上尚司、柏原佳子、加藤光信、加輪上敏彦、北浪邦夫、北浪隆子、功力正士、熊谷親啓、黒崎敬三、河野長生、芝川英美子、島田恒、下田恵美子、杉村肇、鈴木博正、武内浩子、武田寿子、多胡葉子、中尾英輔、長澤智子、朴正浩、橋爪宏之、橋本和子、橋本正晴、濱浩一、濱美智子、濱瀬真知子、東野幸一、平井幸夫、福原吉孝、古川於兔彦、松井隆介、万本敬一、水野雄二、三宅敬、森忠司、安行英文、山口政紀、山口洋子、山本克己、山本常雄、吉田透、吉野泰史、吉原尚美、米田喜美、米田准三、和田智子、和田貞雄、武本雅行、鄭美恵、片岡三朗、楠美香、野上岳彦、東中弘丞、清水規裕、清水真由美、山本卓、石岡健、佐野睦、澤山八郎、竹増操、堀江裕一、阪根新 (敬称略・順不同)

【神戸YMCA創立125周年協賛金】

*②は、入金2回目を表します。

- 二改牧莉子、田村光、依田政子、長岡利枝、越智智子、日本基督教団神戸聖愛教会、ワイズメンスクラブ六甲部、小紫富久枝、城純一②、嵐延子、木島三雄、大津善旦、藤村忠克、藤井辰男、清水彬久、飯田義雄②、藤田悦子、井上耕作②、上杉徹

(2011年4月13日～6月15日受付分)

(敬称略、順不同)

★★ 個人消息 ★★

【ご誕生】おめでとうございます。

- 5/19 清水浩一さん(三田センター) ご長女 美宇(みう)ちゃん
- 6/7 佐久間真人さん(日本YMCA同盟出向中) ご長女 陽子(ようこ)ちゃん

【ご逝去】謹んでお悔やみ申し上げます。

- 5/15 和田 雪さん(西神戸ランチ) ご母堂様

【日本YMCA同盟主事認証】

- 6/1 永井道子さん(国際・奉仕センター)
- 佐久間真人さん(日本YMCA同盟出向中)